

携帯型デジタル簡易無線機
IC-DU45

この無線機を使用するには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰
されます。



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた免許局対応の携帯型デジタル簡易無線機です。
ご使用の前に、取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

本製品の特長

- ◎IP67(P.iii)の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ、保護カバー装着時に限る)
 - ◎デジタル無線機の特長として、高音質で通話ができます。
 - ◎サブチャンネルPTT機能搭載により、最大3チャンネル間で送受信ができます。(P.4-1)
 - ◎チャンネル番号音声案内機能を使用すると、メモリーチャンネルを切り替えたとき、選択したチャンネル番号を音声で読み上げます。
 - ◎Bluetooth機能搭載により、VS-3(別売品)などのBluetoothヘッドセットを使用できます。(P.4-6)
 - ◎ポケットビープメロディー機能を使用すると、ビープ音の代わりとして、メロディーでお知らせできます。
 - ◎あらかじめ設定した複数のチャンネルを巡回受信できるメモリーチャンネルスキャン機能を装備しています。
 - ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3B」、「3C」、「3D」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換*があります。
※中継機のご使用については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
 - ◎イコライザー機能を使用すると、好みの音質にできます。
- ★ AMBE+2™方式を採用している機種に対応しています。

取扱説明書の構成

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「ご使用になる前に」(別紙)、弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」(PDFファイル)で構成されています。

ご使用になる前に(別紙)

はじめに本製品をお使いになる前に、知っておいていただきたい安全上のご注意や本製品の基本的な操作方法などについて記載しています。

取扱説明書(本書)

各種機能の詳細や使用方法について記載しています。

- ◎通話のしかた(応用編)
- ◎そのほかの機能について
- ◎別売品について
- ◎保守について

取扱説明書の内容

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品

- ◎アンテナ 1
 - ◎ハンドストラップ 1
 - ◎ご使用になる前に
 - ◎保証書
- ※充電器、およびバッテリーパックは、別売品です。(P.6-1)

使用後はリサイクルへ



この製品は、充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。
充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <https://www.jbrc.com/>

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。

Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標、または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

音声圧縮(符号化)方式

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #8,359,197 and #7,970,606.

運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

- ※バッテリーパック、アンテナ、保護カバーを無線機に正しく取り付けられた状態で洗浄してください。
- ※常温の真水でやさしく洗い流してください。
- ※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

- 無線機本体、保護カバーが破損している場合
- 落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

電磁ノイズ

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター回路内蔵のおもな電子機器】

- ◎LED照明器具
- ◎電磁調理器
- ◎給湯器
- ◎太陽光発電装置
- ◎自動車に搭載された電子機器

取り扱い上のご注意

- ◎アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎雨の中や、水滴が付着したまま、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホン、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。
- ◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)、アルカリ乾電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

はじめに

電波法上のご注意

- ◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎免許の有効期間は、免許取得日から数えて5年間です。
再免許の申請は、有効期間満了の6カ月前から3カ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

防塵/防水性能

バッテリーパックとアンテナ、保護カバーを正しく取り付けた状態で、IP67の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックやアンテナ、保護カバーを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- -20°C ~ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき

別売品の使用による防塵/防水性能

防水形スピーカーマイクロホン(HM-168LWP)を使用したときは、IP67の防塵/防水性能があります。

- ※ 上記以外の別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。
- ※ 別売品(P.6-1~P.6-7)は、防塵/防水性能をご確認のうえ、ご使用ください。

IP表記

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

- IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を 1m^3 あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること
- IP6X(耐塵形) : 試験用粉塵を 1m^3 あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の浸入がないこと
- IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと
- IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

はじめに

電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯のBluetoothで通信するときは、次のことさらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。

◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、使用場所を変更するか、Bluetoothのご使用をお控えください。

◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンター(P.7-3)へお問い合わせください。

2.4GHz現品表示記号の意味

「2.4」：2.4GHz帯を使用する無線設備

「FH」：FHSS方式

「1」：想定干渉距離が10m以下

「---」：全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可

2.4FH1

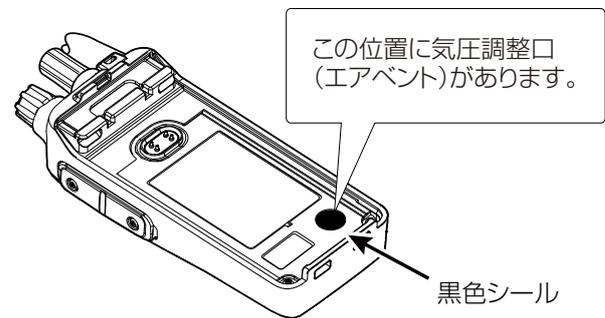
気圧調整口(エアベント)

下図の位置に気圧調整口(エアベント)があり、この下にある空気を通す素材のシートによって、気圧を調整しています。

※ほかのシールを貼るなどしてふさぐと、気圧調整ができなくなり、運用してしばらくすると、内蔵スピーカーからの音量が小さくなる現象が発生することがあります。

また、防水性能が維持できなくなる場合があります。

※黒色シールに傷がつくと、防水性能が維持できなくなる場合があります。



もくじ

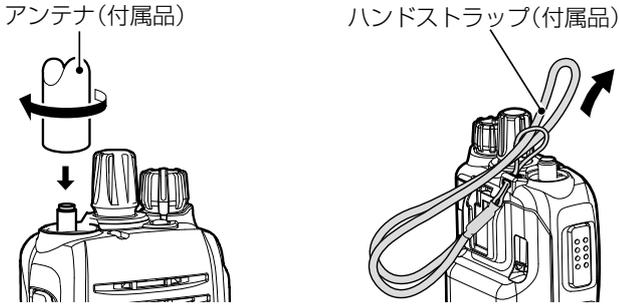
はじめに	i	5. 各種機能の設定	5-1
本製品の特長	i	■ 設定項目一覧	5-1
取扱説明書の構成	i	■ 設定モードに移行するには	5-2
取扱説明書の内容	i	■ 設定のしかた	5-2
付属品	i	■ 設定項目について	5-3
登録商標/著作権	i	6. 別売品について	6-1
音声圧縮(符号化)方式	ii	■ 別売品一覧表	6-1
運転時のご注意	ii	■ バッテリーパック使用時の運用時間と充電時間	6-2
海水が付着したときは?	ii	■ 保護カバーの取り付けと取りはずし	6-3
電磁ノイズ	ii	■ HM-168LWP	6-3
取り扱い上のご注意	ii	■ HM-238LWP(サブチャンネルPTT機能対応 タイピン型マイクロホン)	6-4
電波法上のご注意	iii	■ BC-266	6-5
防塵/防水性能	iii	■ BP-312(アルカリ乾電池ケース)	6-6
別売品の使用による防塵/防水性能	iii	■ 外部電源の接続	6-7
IP表記	iii	7. 保守について	7-1
電波干渉についてのご注意	iv	■ 日常のお手入れと点検	7-1
2.4GHz現品表示記号の意味	iv	■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守について	7-1
気圧調整口(エアイベント)	iv	■ 故障かな?と思ったら	7-1
1. ご使用前の準備	1-1	■ アフターサービスについて	7-3
■ アンテナ/ハンドストラップの取り付け	1-1		
■ ベルトクリップの取り付け	1-1		
■ スピーカーマイクロホンなどの接続	1-1		
■ バッテリーパックの取り付け/取りはずし	1-1		
■ 電源の入れかたと音量調整について	1-2		
2. 各部の名称と機能	2-1		
■ 前面部/側面部	2-1		
■ 表示部	2-2		
■ 電池の残量表示	2-2		
■ 電池の残量警告音	2-2		
3. 通話のしかた(応用編)	3-1		
■ 個別呼び出し機能で通話するには	3-1		
■ ユーザーコードを使用して通話するには	3-4		
4. そのほかの機能について	4-1		
■ サブチャンネルPTT機能	4-1		
■ Bluetooth機能	4-6		
■ ペ어링/接続のしかた	4-6		
■ ロック機能	4-8		
■ 送信出力の切り替え	4-8		
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	4-9		
■ ローンワーカー機能	4-11		
■ Pベル機能	4-12		
■ ポケットビープ機能	4-12		
■ ポケットビープメロディー機能	4-12		
■ モニター機能	4-13		
■ 秘話機能	4-13		
■ チャンネル番号音声案内機能	4-13		
■ ショートメッセージ機能	4-14		
■ 設定が必要な機能について	4-15		

1

ご使用前の準備

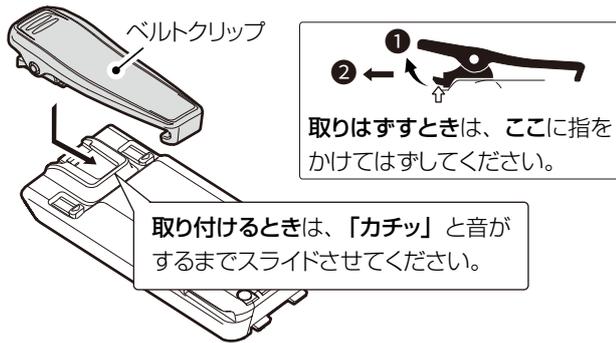
■ アンテナ/ハンドストラップの取り付け

下図のように、付属品を取り付けます。



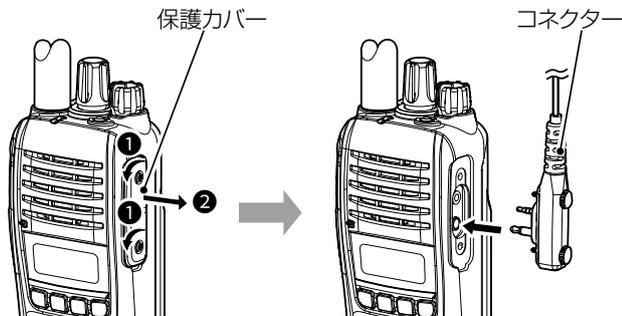
■ ベルトクリップの取り付け

下図のように、別売品のベルトクリップを取り付けます。バッテリーパック単体の状態で、ベルトクリップを着脱してください。



■ スピーカースピークホンなどの接続

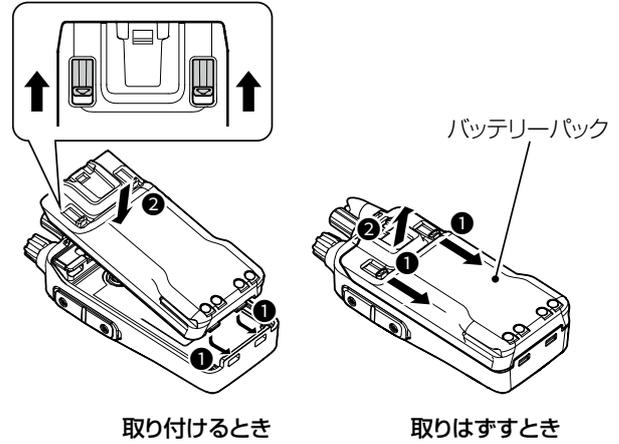
スピーカースピークホンやヘッドセットなどを接続するときは、無線機の電源を切ってから、図のように保護カバーを取りはずし、別売品のコネクタを接続してください。(P.6-3)



※防水性能の維持と端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

■ バッテリーパックの取り付け/取りはずし

本体の電源を切った状態で、バッテリーパックを着脱してください。



△警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

※充電方法については、6-5ページ～6-6ページをご覧ください。

△注意

しばらく使用しないときは、バッテリーパックを本製品から必ず取りはずしてください。本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、電池が消耗する原因になることがあります。

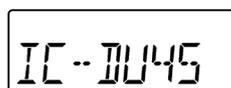
1 ご使用前の準備

■ 電源の入れかたと音量調整について

1 電源を入れる

電源/音量ツマミを時計方向に回します。

- 状態表示ランプが点灯し、ビープ音が鳴ります。
- ※防塵/防水対応により、ツマミは簡単に回らない構造になっています。
- ※音量が最小のときは、操作音(ビープ音)や受信した音声などは聞こえません。
- ★個別呼び出し機能が設定されているとき、自局番号が表示されます。



電源投入直後



自局番号表示*



2 音量を調節する

電源/音量ツマミを時計方向に回すと、音量が大きくなります。相手の音声聞きやすい音量にしてください。調整できる範囲は、「0～32」です。



音量表示例：10

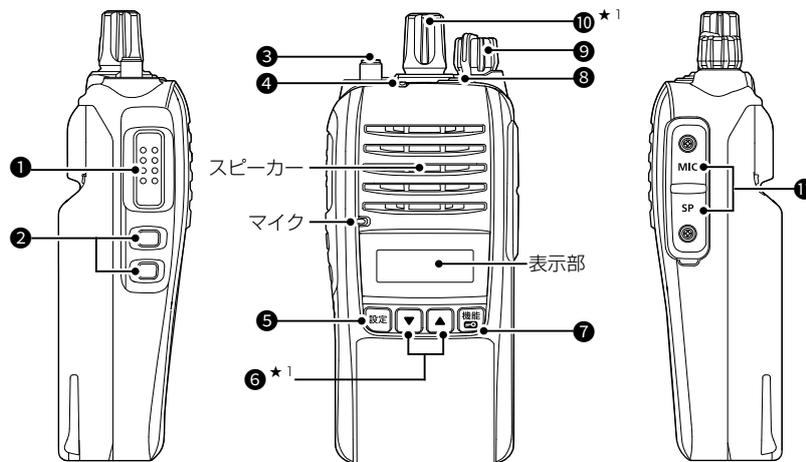
ご参考

[サイド1]、または[サイド2]にモニター機能が設定されている場合、「ザー」という音を聞きながら、音量を調整できます。

※「ザー」と音が出ない場合は、モニター機能が設定されていません。

モニター機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 前面部/側面部



① [PTT]

押し続けているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。

② [サイド1] (上)/[サイド2] (下)

サブチャンネルPTT機能など設定モードで割り当てた機能^{★3}を操作、またはサブチャンネルのPTTスイッチとして使用できます。(P.4-1)

③ アンテナコネクター

④ 状態表示ランプ

[PTT] を押し続けているあいだ(送信中)は赤色、電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。

⑤ [設定]

◎個別呼び出し機能設定時^{★3}、短く押すごとに、相手局番号(全体/基地/個別/グループ)を選択できます。(P.3-1)

◎長く(約1秒)押すごとに、送信出力が切り替わります^{★3}。

⑥ [▼]/[▲]

メモリーチャンネルの変更や、設定値の切り替えをします。

⑦ [機能/ON/OFF]

◎短く押すごとに、ユーザーコード表示、個別呼び出し表示^{★2}などに切り替わります。

◎長く(約1秒)押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」できます。

⑧ [緊急呼び出し]

長く(約5秒)押すと、緊急呼び出し機能^{★3}が動作します。(P.4-9)

※長押し時間は、設定によって異なります。

※初期設定時や全設定初期化時は、緊急呼び出し機能が使用できません。

⑨ 電源/音量ツマミ

電源の「ON」/「OFF」と音量の調整をします。

⑩ CH切り替えツマミ

[▼]/[▲]と同じ動作をします。

⑪ [MIC/SP] ジャック

別売品のスピーカーマイクロホンなどを接続します。

※プラグを抜き差しするときは、必ず本製品の電源を切ってください。

※防塵/防水性能を維持するため、使用しないときは保護カバーを正しく閉じてください。

※保護カバーは、ネジ(M2×6)で固定されています。

★1 CH切り替えツマミと[▼]、[▲]は同じ動作をします。

本書では[▼]、[▲]を使用して説明しています。

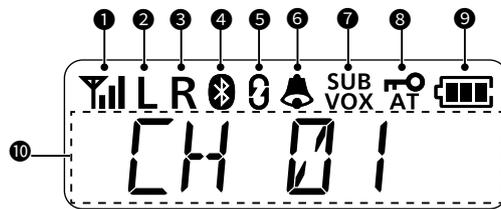
★2 個別呼び出し機能が設定されているとき、表示されます。

個別呼び出し機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

★3 機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

2 各部の名称と機能

■ 表示部



(CH 01 : チャンネル 01 表示)

- ① 受信電波の強さ(4段階)を表示
無* 弱 中 強
★待受状態、または受信した電波の強さが著しく弱いときに表示されます。
- ② 送信出力が1Wに設定されているとき
- ③ 送信禁止が設定されているとき
- ④ Bluetooth機能が「ON」のとき
- ⑤ 秘話機能*が「ON」のとき(P.4-13)
- ⑥ 点滅：通話相手から個別呼び出し*、またはポケットビープ機能が「OFF」以外で、ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき(P.4-12)
 点灯：ポケットビープ機能が「OFF」以外で個別呼び出し機能*、またはユーザーコード機能が「ON」のとき(P.4-12)
- ⑦ SUB サブチャンネルPTT機能が設定されているとき(P.4-1)
VOX VOX機能*が「OFF」以外するとき
- ⑧ ロック機能が「ON」のとき
AT 自動チャンネル切替機能*が設定されているとき
- ⑨ 電池残量の目安(4段階)を表示
- ⑩ 音量、メモリーチャンネル、ユーザーコード、秘話キー、設定モードなどを表示

★ 機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください

■ 電池の残量表示

電池の残量(目安)を電池マークで表示します。

※別売品の外部電源供給器(AD-149H)を接続しているときは、が表示されます。

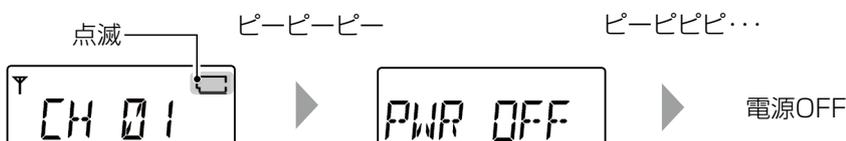


■ 電池の残量警告音

電池の残量が少なくなると、電池マークが点滅して、警告音が「ピーピーピー」と、約30秒ごとに鳴ります。

警告音が鳴り出したら、すぐに充電してください。

※点滅表示の状態で使用をつづけると、警告音が「ピーピーピー…」と2秒間鳴りつづけたあと、無線機の電源が自動的に切れます。



■ 個別呼び出し機能で通話するには

相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法です。
個別呼び出し機能の設定によって、操作が異なります。
※個別呼び出し機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

個別呼び出し機能：「OFF」(初期設定)

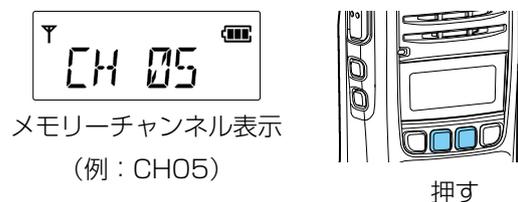
相手と同じメモリーチャンネルに合わせてから、送信します。
※全体/基地/個別/グループ番号の選択はできません。

個別呼び出し機能：「ON」

1. 相手と同じメモリーチャンネルに合わせます。
2. 呼び出す相手(全体/基地/個別/グループ番号)を選択後、送信します。

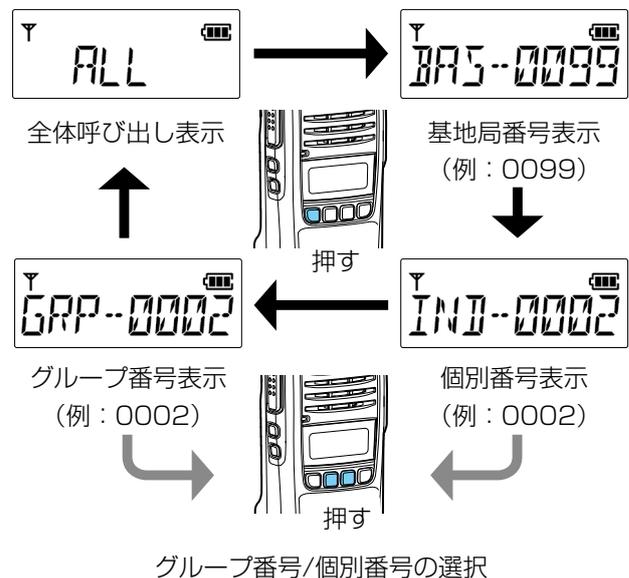
1 メモリーチャンネルを合わせる

[▼]/[▲]を押して、相手と同じメモリーチャンネル(例：CH05)に合わせます。
※メモリーチャンネルが表示されていないときは、
[機能/↻]を繰り返し押して、メモリーチャンネル表示に切り替えます。



2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

1. [設定]を繰り返し押して、呼び出す相手を選択します。
2. [▼]/[▲]を押して、相手の個別番号、または所属するグループ番号を選択します。



番号表示の代わりに名称を表示させるには

メモリーチャンネル、自局番号、相手の個別番号の代わりに、右図のような名称表示でご使用になる場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



メモリーチャンネルについて

お買い上げの販売店で、あらかじめ免許を受けた周波数がメモリーチャンネルとして設定されています。
設定変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

サブチャンネルスキャン中の操作について

サブチャンネルPTT機能が設定されている場合、サブチャンネルをスキャンしているあいだ(「SUB」点灯)は、メモリーチャンネルの切り替えができません。
表示中のメモリーチャンネルを変更する場合は、サブチャンネルのスキャンを一時停止(「SUB」点滅)してください。(P.4-4)

3 通話のしかた(応用編)

■ 個別呼び出し機能で通話するには

3 呼び出しをする(送信する)

他局が通信していないこと(状態表示ランプ：消灯)を確認後、[PTT]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

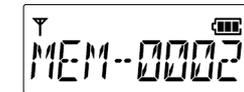
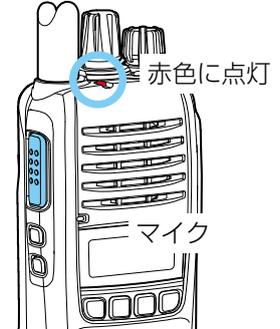
- [PTT]を押しているあいだは、送信状態になり、状態表示ランプが赤色に点灯します。

グループ呼び出しのご注意

通話相手がグループ番号のメンバー指定をしていない場合、そのグループ番号で呼び出しをしても、こちらの音声は相手に聞こえません。

※お買い上げの販売店で、相手側の無線機のグループ番号にメンバー指定(MEM)が必要です。

[PTT]を
押しつづける



グループ02にメンバー
指定している表示

【個別呼び出し後、相手局から応答がないときは】

相手が無線機からはなれている場合や、電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、表示が点滅から点灯に切り替わってから、再度、[PTT]を押すと、繰り返し呼び出しできます。



呼び出し後、応答を待っている状態

【相手局が通信圏内かどうかを確認するには】

個別呼び出し機能で通話する双方の無線機にアンサーバック機能がお買い上げの販売店で設定されているとき、下記の操作で確認できます。

個別、または基地局呼び出しする相手局番号を選択して、待ち受け状態で[PTT]を短く押します。

- 相手局が通話圏内にいる場合、「ピッ」と鳴り、ランプが1回点滅(緑色)します。
通話圏外など、相手に電波が届かない場合は、終話して、操作前の表示に戻ります。

マイクの使いかた

マイクに向かって話すときは、マイクと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。マイクを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなる場合がありますのでご注意ください。

通話する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

正しい通話方法について

次の要領で通話をしてください。

用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】

「相手局の呼び出し名称」	3回以下
「こちらは」	1回
「自局の呼び出し名称」	3回以下
「どうぞ」	1回

【応答をするとき】

3回以下
1回
1回
1回

3 通話のしかた(応用編)

■ 個別呼び出し機能で通話するには

4 呼び出しを受ける

信号を受信すると、ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

待ち受け状態(ランプ：消灯)になってから、[PTT]を押します。



◇呼び出しを受けたときの表示

個別呼び出し機能「OFF」の場合

選択しているメモリーチャンネルの電波を受信したときの表示です。

電波状態



受信中の表示例

個別呼び出し機能：「ON」の場合

◎全体呼び出しを受けたとき

相手局番号と「ALL」が交互に表示されます。



相手局番号表示



(交互に表示)



「ALL」(全体)表示

◎個別呼び出しを受けたとき

相手局番号と「」が点滅表示されます。

ポケットビープ機能やポケットビープメロディー機能が設定されているときは、設定されたビープ音やメロディー音が鳴ります。(P.4-12)

※相手が基地局の場合は、基地局番号を意味します。



相手局番号表示(点滅)



基地局番号表示(点滅)

◎グループ呼び出しを受けたとき

相手局番号とグループ番号を交互に表示します。



相手局番号表示



(交互に表示)



グループ番号表示

3 通話のしかた(応用編)

■ ユーザーコードを使用して通話するには

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、簡易的な通話グループが構成できます。

ほかの人の音声を聞こえなくして、特定の相手の音声だけを聞くとときに使用します。

※メモリーチャンネルとユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

※秘話機能*や個別呼び出し機能*と併用できます。

★機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】

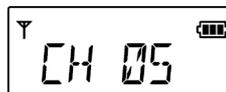


1 メモリーチャンネルを合わせる

[▼]/[▲]を押して、相手と同じメモリーチャンネルに合わせます。

※メモリーチャンネルが表示されていないときは、

[機能/☐]を繰り返し押して、メモリーチャンネル表示に切り替えてください。



メモリーチャンネル表示
(CH05の場合)



押す

2 UC(ユーザーコード)表示にする

[機能/☐]を押して、「UC-OFF」(初期設定)表示に切り替えます。

※何も操作していない状態で約10秒経過すると、メモリーチャンネル表示に戻ります。



ユーザーコード表示
(OFFの場合)



押す

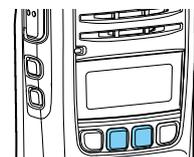
3 ユーザーコードを設定する

[▼]/[▲]を押して、通話する相手と同じユーザーコード(例：001)を設定します。

- 選択範囲：OFF(000)、001～511



ユーザーコード表示
(001の場合)



押す

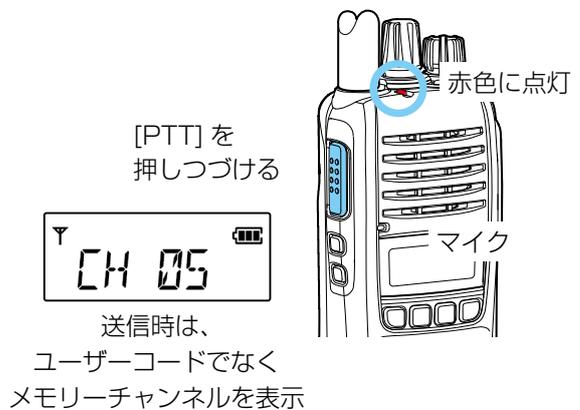
3 通話のしかた(応用編)

■ ユーザーコードを使用して通話するには

4 [PTT]を押しながら自分の声を送信する

[PTT]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送信状態になり、状態表示ランプが赤色に点灯します。



5 [PTT]をはなして、相手の音声を受信する

[PTT]をはなすと待ち受け状態になり、自分と同じメモリーチャンネルとユーザーコードで通話する相手局の音声を受信できます。

受信中は、状態表示ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態を表示します。

待ち受け状態のときは、状態表示ランプが消灯しています。

※ユーザーコードが異なる他局の電波を受信しているときも、状態表示ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

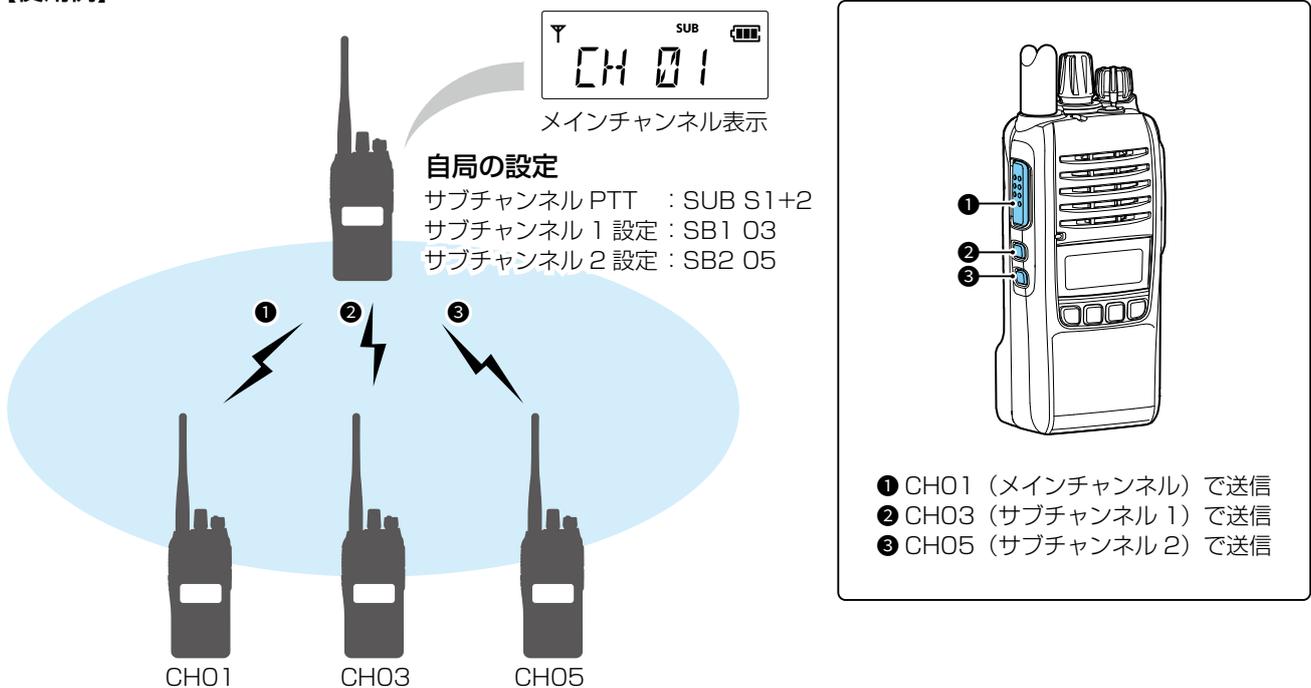


■ サブチャンネルPTT機能

[サイド1]、[サイド2]にサブチャンネルを割り当てることで、チャンネル切り替え操作をしないで最大3チャンネル間で送受信ができる機能です。

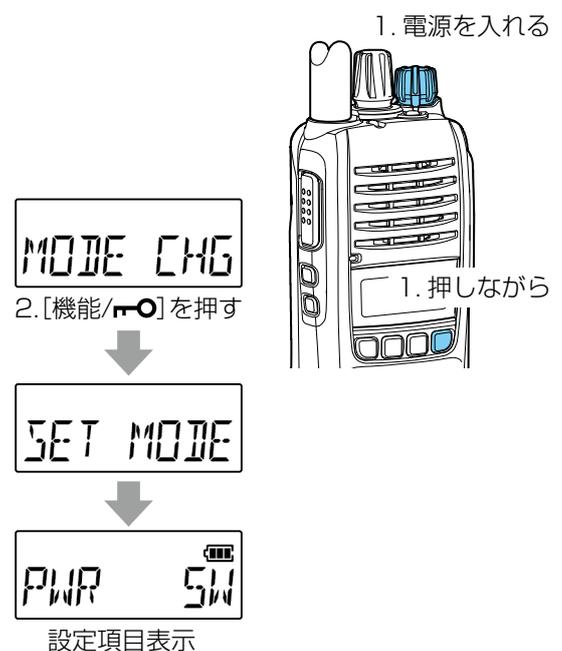
※サブチャンネルPTT機能と併用できない機能が設定されている場合、サブチャンネルPTT機能が使用できません。
詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

【使用例】



1 設定モードにする

1. 本製品の電源を切った状態で、[機能/PTT]を押しながら、電源/音量ツマミを回して電源を入れます。
 - 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。
 2. [機能/PTT]から手をはなしたら、すぐに[機能/PTT]を短く押します。
 - 「ピピッ」と鳴って、「SET MODE」のあと、設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。
- ※「MODE CHG」が表示されなかったときは、電源を切り、操作をやり直してください。



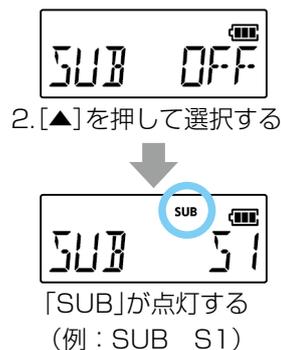
4 そのほかの機能について

■ サブチャンネルPTT機能

2 サブチャンネルPTT機能を設定する

1. [機能/]、または[設定]を繰り返し押して、「SUB OFF」(初期設定)を選択します。
2. [▲]を押して、「S1」、「S2」、または「S1+2」を選択します。
 - 「SUB」が点灯し、サブチャンネルPTT機能が有効になります。

- S1 : [サイド1]を押したとき、サブチャンネル1で送信する
- S2 : [サイド2]を押したとき、サブチャンネル1で送信する
- S1+2 : [サイド1]を押したときはサブチャンネル1、[サイド2]を押したときはサブチャンネル2で送信する

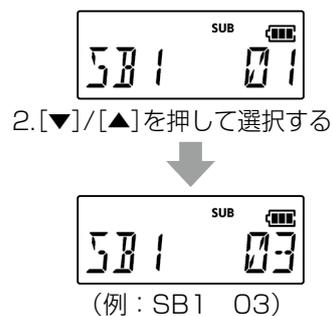


1. 繰り返し押す

3 サブチャンネルにメモリーチャンネルを割り当てる

1. [機能/]を押して、「SB1 01」(初期設定)を選択します。
2. [▼]/[▲]を押して、サブチャンネル1に割り当てるメモリーチャンネルを選択します。

※サブチャンネルPTT機能の設定が「S1+2」のときは、もう一度[機能/]を押して、「SB2 02」(初期設定)を選択し、サブチャンネル2にメモリーチャンネルを割り当ててください。



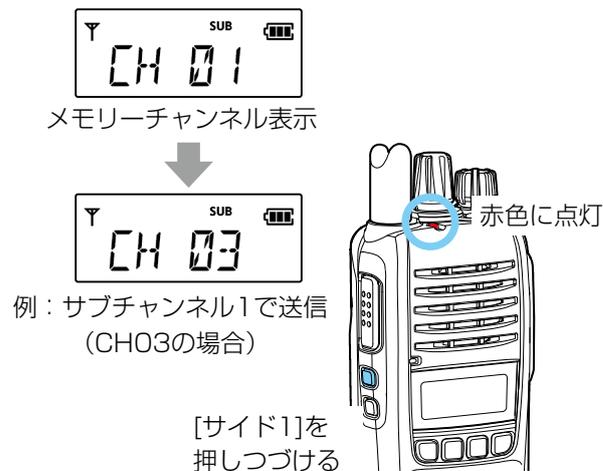
1. 押す

4 そのほかの機能について

■ サブチャンネルPTT機能

◇サブチャンネルで送信する

[サイド1]、または[サイド2]を押しつづけると、割り当てられたメモリーチャンネルで送信します。

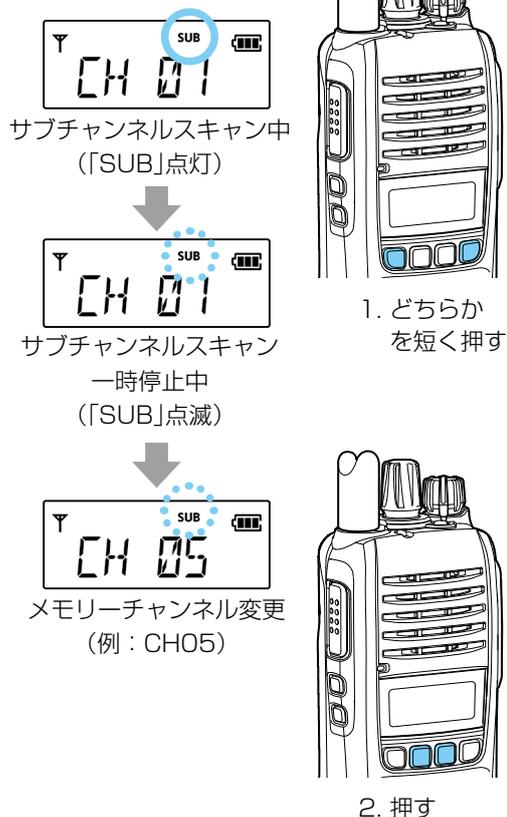


【メモリーチャンネルの変更について】

サブチャンネルのスキャン中(「SUB」点灯)は、表示中のメモリーチャンネルを変更できません。

メモリーチャンネルを変更する場合は、以下の手順で変更してください。

1. [設定]、または[機能/PTT]を短く押します。
 - 「SUB」が点滅し、サブチャンネルのスキャンが一時停止します。
2. 「▼」/「▲」を押して、相手と同じメモリーチャンネルに合わせます。



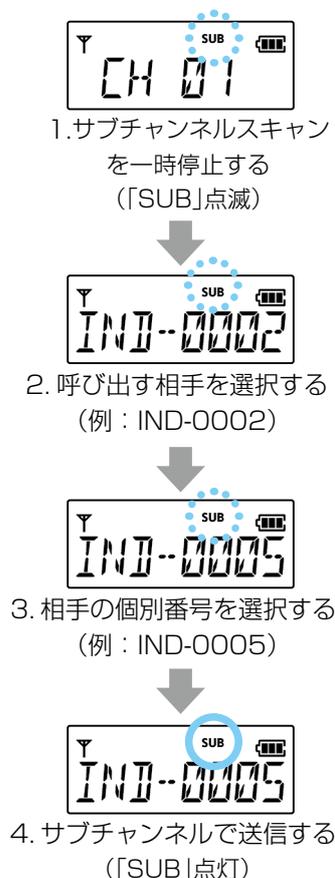
4 そのほかの機能について

■ サブチャンネルPTT機能

◇サブチャンネルで個別呼び出しする

お買い上げの販売店で個別呼び出し機能が設定されている場合、サブチャンネルで個別呼び出しができます。(P.3-1)

1. 「設定」、または[機能/PTT]を短く押します。
 - 「SUB」が点滅し、サブチャンネルのスクランが一時的に停止します。
2. 「SUB」が点滅しているあいだに、[機能/PTT]を繰り返し押し、呼び出す相手を選択します。
3. [▼]/[▲]を押して、相手の個別番号、または所属するグループ番号を選択します。
4. 他局が通信していないこと(状態表示ランプ：消灯)を確認後、[サイド1]、または[サイド2]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。



◇サブチャンネルで受信する

サブチャンネルで受信すると、サブチャンネルに設定されたメモリーチャンネル表示(例：CH03)になります。応答するときは、そのサブチャンネルが設定されている[サイド1]、または[サイド2]を押します。

※サブチャンネルで受信したとき、[PTT]で応答できるようにするには、設定が必要です。お買い上げの販売店にご依頼ください。

ご注意

「SUB」が点灯しているあいだ、無線機は常にサブチャンネルをスクランしています。

[設定]や[機能/PTT]の操作後など、サブチャンネルのスクランが一時停止中(「SUB」点滅)は、サブチャンネルで受信できませんので、ご注意ください。



4 そのほかの機能について

■ Bluetooth機能

本製品のBluetooth機能を有効にすると、Bluetooth対応機器と接続できます。

※Bluetooth機能を使用する場合は、設定モードでの設定が必要です。(P.5-4)

※2024年6月現在、動作確認済みの弊社製Bluetooth機器は、VS-3(別売品)です。

本製品とVS-3をBluetoothで接続すると、VS-3から送受信できます。

※Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。

※本製品に登録できるBluetooth機器は1台だけです。

■ ペ어링/接続のしかた

ペ어링(接続の認証)とは、Bluetooth機器をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。

一度ペ어링したBluetooth機器とは、それ以降ペ어링する必要はありません。

本体側の電源をONにするとBluetooth機器と接続され、OFFにすると切断されます。

※本書では、VS-3を例に説明しています。

ご注意

◎本製品と接続する機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。

また、Bluetooth標準規格に適合していても、機器の仕様や設定により、本製品と接続できないことがあり、すべての動作を保証するものではありません。

◎複数のBluetooth機器がある場所では、ペ어링したいBluetooth機器が検出されないことがあります。

このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。

◎電源を切るなどして、Bluetooth接続を切断した場合は、無線機本体側のスピーカーから音が出るように切り替わります。

無線機本体側の音量ボリュームの上げすぎにご注意ください。

1 VS-3をペ어링モードにする

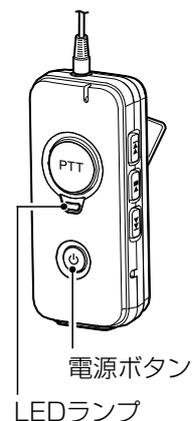
1. LEDランプが赤/青交互に点滅するまで、VS-3の電源ボタンを長く(約6秒)押します。

2. 数秒後、「ピパ」*と鳴って、LEDランプが赤/青交互に点滅するのを確認してから、ボタンから手をはなします。

※はじめてVS-3をご使用になる場合やVS-3のペ어링リストを初期化したあとは、電源を入れるだけでペ어링モードになります。

※ペ어링する機器がない状態が5分つづく、ペ어링モードが解除され、さらに5分経過すると、電源が切れます。

★VS-3に接続しているイヤホンから音が鳴ります。

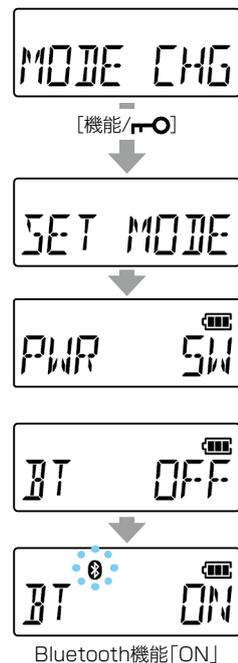


4 そのほかの機能について

2 Bluetooth機能をONにする

1. 本製品の電源を切った状態で、[機能/⏻]を押しながら、電源/音量ツマミを回して電源を入れます。
 - 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。
2. [機能/⏻]から手をはなしたら、すぐに[機能/⏻]を短く押します。
 - 「ピピッ」と鳴って、「SET MODE」のあと、設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。

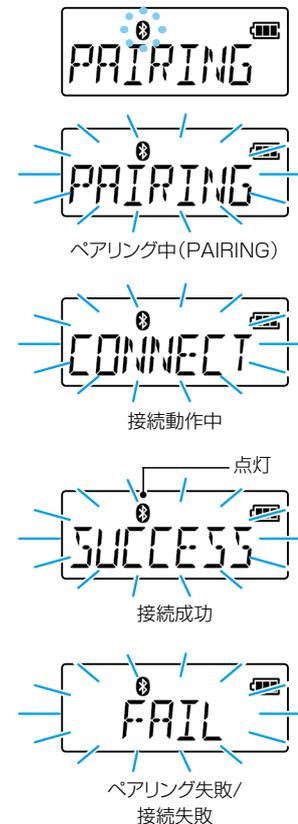
※「MODE CHG」が表示されなかったときは、電源を切り、操作をやり直してください。
3. [設定]、または[機能/⏻]を押して、「BT」を選択します。
4. [▲]を押して、「ON」にします。
 - [🔋]が点滅します。
5. 設定モードのまま、次の手順「3 IC-DU45からVS-3をペアリングする」を操作します。



3 IC-DU45からVS-3をペアリングする

1. [機能/⏻]を押して、「PAIRING」を表示します。
2. [サイド2]を押します。
 - 「PAIRING」が点滅し、ペアリングを開始します。
 - 接続動作に移行すると、「CONNECT」点滅になります。
 - 「SUCCESS」が点滅後、「PAIRING」に戻ると接続成功です。[🔋]が点灯します。

※ペアリングや接続に失敗すると、「FAIL」が点滅し、「PAIRING」に戻ります。
3. [PTT]を押します。
 - 設定モードが解除され、チャンネル表示に戻ります。



【ペアリング後の動作について】

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

下記の条件を満たしている場合、自動で接続します。

◎無線機のBluetooth機能が「ON」

◎無線機が待受状態

◎Bluetooth機器の電源が「ON」

※接続中は[🔋]が点滅します。接続が完了すると[🔋]が点灯します。

Bluetoothの通信においては、周辺機器の影響で通信範囲が著しく変化します。

◎ 電子レンジなどによる妨害 ◎ 無線LANによる妨害

このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離をはなすなどしてください。

また、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

4 そのほかの機能について

■ ロック機能

不用意に無線機のキーに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにする機能です。

【操作のしかた】

[機能/**LOCK**]を長く(約1秒)押します。

・「ピピッ」と鳴って、[**LOCK**]が表示されます。

※同じ操作をすると、ロック解除できます。

【ロック中にできる操作】

◎ロック機能の解除

◎送信/受信

◎モニター機能のON/OFF*

◎電源の「ON」/「OFF」

◎音量調整*

◎緊急呼び出し*

★機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



長く押す

■ 送信出力の切り替え

最適な通信ができるように、相手局との距離に応じて送信出力を切り替えられます。

【操作のしかた】

[設定]を長く(約1秒)押すごとに、送信出力をハイパワー(5W)、ローパワー(1W)に切り替えます。

ローパワー選択時は「L」が点灯します。

※無線機本体で切り替えできるようにするには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※選択したメモリーチャンネルが受信専用の場合は、

「R」が点灯し、送信出力の切り替えはできません。



点灯



長く押す

4 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、メモリーチャンネルが一致する局に緊急信号を送出して、相手に警告音で通知します。
※緊急呼び出し機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

△ 警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

本製品にヘッドセットやイヤホンを取り付けて、緊急呼び出し機能を有効に設定する場合は、警告音の音量が電源/音量ツマミでの音量調整と連動するように設定されることをおすすめします。

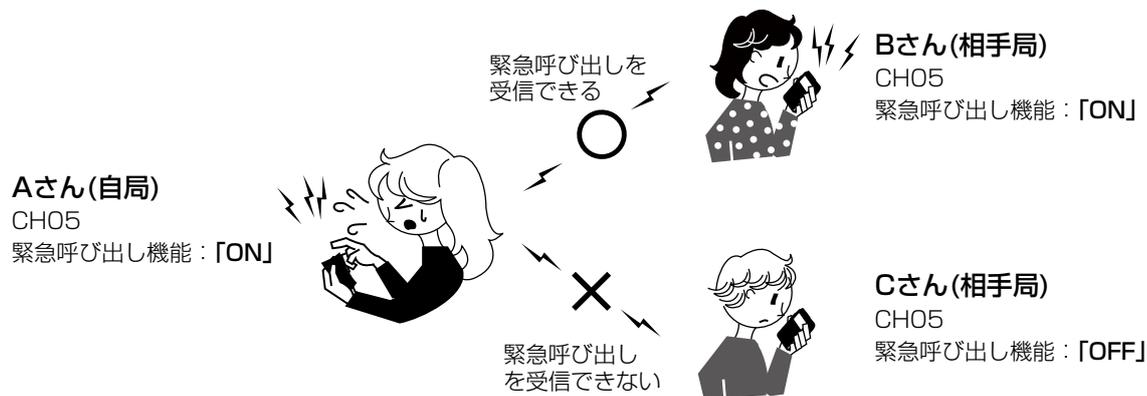
音量の設定は、販売店にご依頼ください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

お買い上げの販売店で、送信側と受信側の緊急呼び出し機能を「ON」に設定してください。

「OFF」に設定されている場合や、緊急呼び出しができないように設定されたメモリーチャンネルでは、[緊急呼び出し]を押しつづけても送信しません。

【使用例】



※緊急呼び出しをしているあいだ、および緊急呼び出しを受けているあいだは、音量調整、および電源を切る以外の操作ができません。

下記のような場合、通知できなったり、通知できても警告音が鳴らなったりすることがあります。

- ◎ 警告音が音量調整と連動して変化するように設定されている場合
- ◎ 警告音を鳴らさない設定がされている場合
- ◎ 動作中、電池の消耗により自動的に電源が切れた場合
- ◎ 電波状況の悪化により電波が届かない場合

4 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

【緊急呼び出しのしかた】

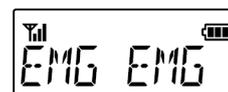
1. 緊急呼び出しをする相手と同じメモリーチャンネル番号を選択します。
2. 「EMG EMG」が表示されるまで、[緊急呼び出し]を長く押します。
 - 「EMG EMG」表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに、状態表示ランプが赤色に点滅します。
3. その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。
 - 応答があると、警告音が停止して、状態表示ランプが緑色に点灯します。
4. 通話をつづけます。
 - 終話すると、「EMG EMG」表示の点滅を停止し、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。



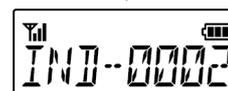
【緊急呼び出しを受けたときは】

1. 警告音が「ピピピ…」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点滅します。
 - ※個別呼び出し機能が「ON」の場合は、「EMG EMG」と相手局番号が交互に表示されます。
 - 個別呼び出し機能が「OFF」の場合は、「EMG EMG」だけが表示されます。
2. [PTT]を押して、応答します。
 - 警告音が停止します。
3. 通話をつづけます。
 - 終話すると、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

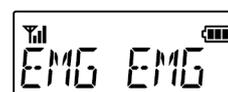
個別呼び出し「ON」



(交互に表示)



個別呼び出し「OFF」



【緊急呼び出しを停止するには】

無線機の電源を切ることで、緊急呼び出しを停止できます。

4 そのほかの機能について

■ ローンワーカー機能

本製品を一定時間操作しなかった場合、ローンワーカー機能が動作し、自動で緊急呼び出しをします。
警備中などに定期連絡を義務付けているとき、何らかの事故が発生して連絡ができなかった場合に便利です。
※ローンワーカー機能を使用するには、設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

【動作について】

初期設定の場合、無線機の操作をしない状態が60分間つづく、「ピッ」と警告音が鳴ります。
警告音が鳴ったあと、さらに60秒間操作をしない状態がつづく、自動で緊急呼び出しをします。
※緊急呼び出しが動作するまでに、スイッチ操作、またはキー操作をすると、警告音を鳴らすまでの時間(60分)がリセットされます。
※無線機の電源を切ることで、緊急呼び出しを停止できます。

緊急呼び出し機能/ローンワーカー機能の使用について

本製品に搭載されている緊急呼び出し機能、ローンワーカー機能は、電池の消耗、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。

補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

緊急呼び出し機能、ローンワーカー機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

4 そのほかの機能について

■ Pベル機能

呼び出しを受けたときに、受信通知音でお知らせする機能です。

応答するまで、相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※[PTT]を押して応答すると、音声ミュートを解除し、相手の音声がかかります。

※Pベル機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ ポケットビープ機能

下記の呼び出しを受けたとき、ビープ音で通知する機能です。

このときのビープ音は、いずれかのキー、またはCH切り替えツマミを操作すると、停止できます。

※サブチャンネルPTT機能を使用している場合、ポケットビープ機能は使用できません。(P.4-1)

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】

「」の点滅とビープ音で通知します。

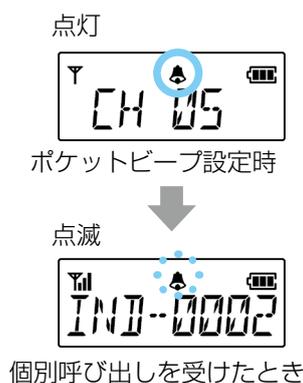
【個別呼び出しによる呼び出しを受けたとき】

ビープ音で通知します。

※ユーザーコードと併用したときも同じです。

※個別呼び出しを受けたときは、ポケットビープの設定に関わらず、「」が点滅します。

※ビープ音の設定と変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ ポケットビープメロディー機能

ポケットビープ機能で呼び出しを受けたときの呼び出し音をメロディー音(9種類)に設定できます。

このときに鳴るメロディー音は、いずれかのキー、またはCH切り替えツマミを操作すると、停止できます。

※呼び出しを受けたときの表示は、ポケットビープ機能と同じです。

※メロディー音の変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

4 そのほかの機能について

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

- ◎受信音がない状態で「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき
- ◎ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局への通話を聞くととき
 - ※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音だけが聞こえます。

【操作のしかた】

[サイド1]、[サイド2]を押しているあいだ、有効になります。

※サブチャンネルPTT機能を使用している場合、モニター機能は使用できません。(P.4-1)

※モニター機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 秘話機能

秘話機能を設定すると、通話内容が傍受されるのを防止できます。

特定の相手にだけ音声を送信するときに使用します。

※メモリーチャンネルと秘話コードが一致したすべての相手と通話できます。

※秘話機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

ご注意

機密性を要する重要な通話に本製品をご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

■ チャンネル番号音声案内機能

[▼]/[▲]を押してチャンネルを切り替えたあと、メモリーチャンネルを音声で通知します。

表示部を見なくても、設定したチャンネルを音声で確認できます。

※CHO1に設定すると、「いち」と発声します。

※チャンネル番号音声案内機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

4 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

個別呼び出し機能が設定された無線機で、個別呼び出し(全体/基地局/個別/グループ番号)と同時に、選択したショートメッセージが送信できます。

※使用するには、お買い上げの販売店で設定が必要です。

送信するメッセージと合わせて、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【ショートメッセージを送信するには】

1. メモリーチャンネルと呼び出し先を選択します。
(P.3-1)
2. ショートメッセージ機能が割り当てられた[サイド1]、または[サイド2]を押します。
 - 「MESSAGE」が表示されます。※[機能/PTT]にショートメッセージ機能を設定している場合は、[機能/PTT]を短く2回押します。
3. [▼]/[▲]を押して、ショートメッセージを選択します。
4. 選択したショートメッセージが表示された状態で、[PTT]を押して、相手局に呼びかけます。
 - ランプが赤色に点灯します。
 - 1回だけスクロールします。
5. 別のショートメッセージをつづけて送信するときは、手順2～手順4を繰り返し操作します。



【受信したショートメッセージの確認】

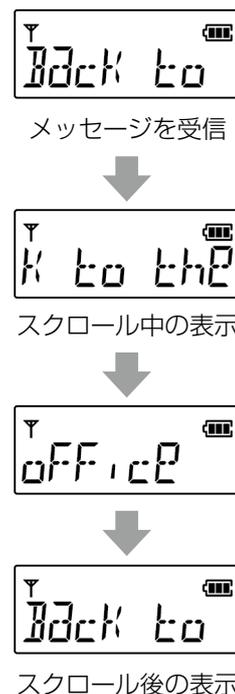
メッセージを受信すると、スクロール表示されます。

※表示されているショートメッセージを再度スクロール表示したいときは、[▼]、[▲]、[機能/PTT]のいずれかを押します。

※ショートメッセージ表示を解除するまで、送信できません。

解除するときは、[設定]を押します。

例: 「Back to the office」のメッセージを受信したとき



4 そのほかの機能について

■ 設定が必要な機能について

以下は、お買い上げの販売店にて設定を変更することで、お使いいただける機能の一覧です。
設定変更、および使用方法については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- ◎ モニター機能(P.4-13)
- ◎ Pベル機能(P.4-12)
- ◎ ポケットビープ機能(P.4-12)
- ◎ 送信モニタービープ機能
- ◎ 終話信号受信ビープ機能
- ◎ 秘話機能(P.4-13)
- ◎ チャンネル番号音声案内機能(P.4-13)
- ◎ VOX機能
- ◎ 個別呼び出し機能(P.3-1)
- ◎ 緊急呼び出し機能(P.4-9)
- ◎ ローンワーカー機能(P.4-11)
- ◎ スキャン機能
- ◎ パワーセーブ機能
- ◎ オートキーロック機能
- ◎ ローバッテリー自動切断機能
- ◎ イコライザー機能
- ◎ 一時音量切り替え機能
- ◎ ショートメッセージ機能(P.4-14)
- ◎ 自動チャンネル切り替え機能
- ◎ 発着信履歴機能
- ◎ 電源オンLED機能

表示される設定項目は、お買い上げ時の設定によって異なります。
詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 設定項目一覧

各機能は、運用状況に応じて、設定モードからお好みの設定に変更できます。

※□欄の項目は初期設定値のときに表示される項目です。

設定値を変更すると、□(網かけなし)の項目が表示されます。

項目名	本体表示	初期設定値	参照
送信出力	PWR SW	5W	P.5-3
キーロック時の音量操作	LCK ALL	ALL(全キー)	P.5-3
外部電源初期値	EXTV AT	AT(自動)	P.5-3
使用バッテリー	BAT LION	LION(リチウムイオン)	P.5-3
サブチャンネルPTT	SUB OFF	OFF	P.5-4
サブチャンネル1設定	S01 01	01	P.5-4
サブチャンネル2設定	S02 02	02	P.5-4
Bluetooth 機能	BT OFF	OFF	P.5-4
Bluetooth ペアリング	PAIRING	---	P.5-4
Bluetooth パワーセーブ	BPS OFF	OFF	P.5-5
Bluetooth ワンタッチPTT	BOP OFF	OFF	P.5-5
Bluetooth PTT&マイク切り替え	P2M ALL	ALL(すべて有効)	P.5-5
Bluetooth AF出力切り替え	BAF HS	HS(ヘッドセット)	P.5-6
Bluetooth マイクレベルオフセット	BMO 8	8	P.5-6
Bluetooth AFレベルオフセット	BAO 8	8	P.5-6
Bluetooth 初期化	BRST NO	NO	P.5-6

5 各種機能の設定

■ 設定モードに移行するには

【操作のしかた】

- 無線機の電源を切った状態で、[機能/電源]を押しながら、電源/音量ツマミを回して電源を入れます。
 - 「ピッ」と鳴って、「MODE CHG」が表示されます。
 - [機能/電源]から手をはなしたら、すぐに[機能/電源]を短く押します。
 - 「ピピッ」と鳴って、「SET MODE」のあと、設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。
- ※「MODE CHG」が表示されなかったときは、電源を切り、操作をやり直してください。



MODE CHG

2. [機能/電源]を押す

SET MODE

PWR SW

設定項目表示
(送信出力 5W)

■ 設定のしかた

設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

- [設定]、または[機能/電源]を短く押して、設定項目を選択します。
 - 目的の機能名称で、[▼]/[▲]を押します。
 - 設定値が切り替わります。
- ※ほかの機能も変更するときは、手順1と2の操作を繰り返します。
- [PTT]を押します。
 - 選択した設定を確定し、設定モードが解除され、チャンネル表示に戻ります。
- ※設定値を変更後に電源を切った場合でも、設定値が確定されます。
- ※設定モードを解除するまで通話できません。

PWR SW

LCK ALL

1. 設定項目が切り替わる
例：キーロック時の音量操作
ALL (初期設定)

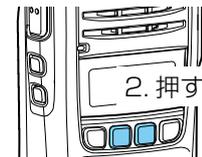
LCK VLOK

2. 設定値が切り替わる
例：VLOKに変更

3. 設定値を確定する

CH 01

メモリーチャンネル表示に
戻る(例：CH01)



SUB OFF

設定項目 設定値

SUB：サブチャンネルPTTの設定 OFF：オフ

5 各種機能の設定

■ 設定項目について

送信出力 (初期設定値：5W)



5W設定時



1W設定時

送信出力について設定します。

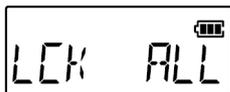
- 5W : 送信出力を5Wに設定する
- 1W : 送信出力を1Wに設定する
- CH : チャンネルごとに送信出力を設定する

※チャンネルごとに送信出力を設定するには、お買い上げの販売店にご依頼ください。

キーロック時の音量操作 (初期設定値：ALL)



VLOK(音量可)設定時



ALL(全キー)設定時

ロック機能動作中の音量調整について設定します。

- VLOK : 音量操作を有効にする
- ALL : 音量操作を無効にする

外部電源初期値 (初期設定値：AT)



AT(自動)設定時



GND設定時

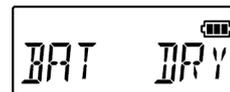
別売品への電源供給を設定します。

- GND : 電源を供給しない
- 5V : 電源を入れたあと、5Vの電源を供給する
※別売品を接続していない場合でも、常に5Vの電源を供給します。
- AT : 別売品を接続すると、自動で電源を供給する

使用バッテリー (初期設定値：LION)



LION設定時



DRY(乾電池)設定時

無線機で使用する電池の種類を設定します。

- LION : 充電式リチウムイオン電池(別売品：BP-280)を使用する
- DRY : アルカリ乾電池(別売品：BP-312)を使用する

5 各種機能の設定

■ 設定項目について

サブチャンネルPTT (初期設定：OFF)



OFF設定時



S1+2設定時

サブチャンネルPTT機能を設定します。

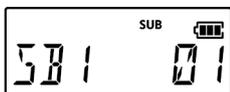
- OFF : サブチャンネルPTT機能を使用しない
- S1 : [サイド1]でサブチャンネルPTT機能を使用する
- S2 : [サイド2]でサブチャンネルPTT機能を使用する
- S1+2 : [サイド1]と[サイド2]でサブチャンネルPTT機能を使用する

※「OFF」以外に設定した場合、キーに割り当てられている機能が無効になります。

※下記項目が「OFF」のとき、表示されます。

「Pベル」、「ポケットビープ」、「VOX」、「発信履歴」、「着信履歴」、「パワーセーブ」、「ショートメッセージ」、「自動チャンネル切替機能」

サブチャンネル1設定 (初期設定値：01)



01設定時

サブチャンネル1に割り当てるメモリーチャンネルを設定します。

- 設定範囲：01～75

※「サブチャンネルPTT」が「S1」、または「S1+2」の場合：

[サイド1]を押しているあいだ、割り当てたメモリーチャンネルで送信する

※「サブチャンネルPTT」が「S2」の場合：

[サイド2]を押しているあいだ、割り当てたメモリーチャンネルで送信する

※「サブチャンネルPTT」を「OFF」以外に設定したとき、設定項目が表示されます。

サブチャンネル2設定 (初期設定値：02)



02設定時

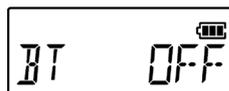
サブチャンネル2に割り当てるメモリーチャンネルを設定します。

- 設定範囲：01～75

※[サイド2]を押しているあいだ、割り当てたメモリーチャンネルで送信します。

※「サブチャンネルPTT」を「S1+2」に設定したとき、設定項目が表示されます。

Bluetooth 機能 (初期設定：OFF)



OFF設定時



ON設定時

Bluetooth機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

※Bluetooth接続を切断するときは、「OFF」に設定してください。

Bluetooth ペアリング



PAIRING設定時

周囲のBluetooth機能対応ヘッドセットを検索し、ペアリングします。

- PAIRING : [サイド2]を押すと、検索を開始

※「Bluetooth」を「ON」に設定したとき、設定項目が表示されます。

5 各種機能の設定

■ 設定項目について

Bluetooth パワーセーブ (初期設定：OFF)



OFF設定時



ON設定時

接続しているBluetooth機器のパワーセーブ機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

※「ON」に設定したときは、VS-3(別売品)と接続中に2分間、操作、または音声通信がなかった場合、電池の電流消費を抑えるため、VS-3がパワーセーブ状態になります。

パワーセーブ状態でVS-3の[PTT]を押す、または押しつづけたときは、最初の1回はパワーセーブ解除の操作となり送信状態になりません。

送信するには、VS-3の[PTT]の押しなおしが必要です。

※「Bluetooth」を「ON」に設定したとき、設定項目が表示されます。

Bluetooth ワンタッチPTT (初期設定：OFF)



OFF設定時



ON設定時

VS-3の[PTT]を短く押すごとに送信と受信を切り替える機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

※「ON」に設定したときは、VS-3の[PTT]を押しつづける必要がなくなります。

※「Bluetooth」を「ON」に設定したとき、設定項目が表示されます。

Bluetooth PTT&マイク切り替え (初期設定値：ALL)



ALL設定時



M.H+O設定時

Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のPTT操作とマイクを制限するときに設定します。

- H+O : Bluetoothヘッドセットや別売品のPTT操作とマイクだけを有効にする

※別売品を接続しない場合、BluetoothヘッドセットのPTT操作とマイクだけが有効になります。

- ALL : Bluetoothヘッドセットや別売品のPTT操作とマイクを有効にする

※別売品を接続しない場合、無線機のPTT操作とマイクが有効になります。

- M.H+O : 無線機、Bluetoothヘッドセット、別売品のPTT操作を有効にし、マイクはBluetoothヘッドセットと別売品のマイクだけを有効にする

※別売品を接続しない場合、無線機のPTT操作が有効になります。

※別売品によっては、別売品のPTT操作でなく、無線機のPTT操作が有効になることがあります。

※「Bluetooth」を「ON」に設定したとき、設定項目が表示されます。

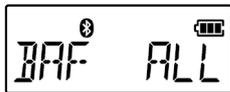
5 各種機能の設定

■ 設定項目について

Bluetooth AF出力切り替え (初期設定値：HS)



HS設定時



ALL設定時

Bluetooth接続時、無線機、別売品の外部機器のスピーカーを制限するときに設定します。

- HS : Bluetooth機器のイヤホンだけを使用する
- ALL : Bluetoothヘッドセットのイヤホンや別売品のスピーカーを使用する
 - ※別売品を接続しない場合、無線機のスピーカーが有効になります。
 - ※別売品によっては、別売品のスピーカーからでなく、無線機のスピーカーから音声が出ることがあります。

※「Bluetooth」を「ON」に設定したとき、設定項目が表示されます。

Bluetooth マイクレベルオフセット (初期設定値：8)



8設定時



15設定時

Bluetoothマイクロホンの感度を設定します。

- 設定範囲：1～15

※「Bluetooth」を「ON」に設定したとき、設定項目が表示されます。

Bluetooth AFレベルオフセット (初期設定値：8)



8設定時



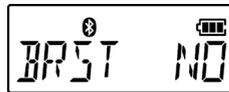
15設定時

Bluetooth機器の音量を設定します。

- 設定範囲：1～15

※「Bluetooth」を「ON」に設定したとき、設定項目が表示されます。

Bluetooth 初期化 (初期設定：NO)



NO設定時



YES設定時

Bluetoothの全設定を初期化します。

- NO : 初期化しない
- YES : [PTT]を押すと、初期化する

※初期化したあとは、「Bluetooth」が「OFF」になります。

※「YES」を選択後、[PTT]を押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

※「Bluetooth」を「ON」に設定したとき、設定項目が表示されます。

本製品を便利にお使いいただくため、下記の別売品をご用意しています。

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧表

弊社ホームページ<https://www.icom.co.jp/>でも、別売品についてご覧いただけます。別売品については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

- ★1 本製品に付属のものと同じです。
- ★2 IP67の防塵/防水性能があります。
- ★3 IP54の防塵/防水性能があります。
- ★4 使用するには、本製品の設定モードから外部電源制御の設定が必要です。(P.5-3)

上記、防塵/防水性能は、「IP表記」をご覧ください。(P.iii)

※別売品を組み合わせ使用したときは、防塵/防水性能の低いものに制限されます。

充 電 す る

BC-213	: 急速充電器
BC-266	: 急速充電器(最大6台まで連結可能)
BC-123S(ストレート型)	: ACアダプター
BC-123S(L型)	: ACアダプター ※BC-213/BC-266単体使用時の電源
BC-228	: ACアダプター ※BC-266連結時の電源

バ ッ テ リ ー 関 係

BP-280*2	: Li-ionバッテリーパック (Min : 2280mAh、Typ : 2400mAh)
BP-312*3	: アルカリ乾電池ケース (単3形アルカリ乾電池×5本) ※6-6ページと併せてご覧ください。

外 部 電 源

AD-149H	: 外部電源供給器
CP-12L	: シガレットライターケーブル (AD-149H用)
OPC-254L	: 電源ケーブル (AD-149H用)

ア ン テ ナ 関 係

FA-S56U*1*2	: アンテナ(約15cm)
FA-S57US*2	: アンテナ(約7cm)

マ イ ク ロ ホ ン 関 係

HM-158LA	: スピーカーマイクロホン
HM-166LA	: イヤホンマイクロホン
HM-168LWP*2	: 防水形スピーカーマイクロホン
HM-238LWP*2*4	: サブチャンネルPTT機能対応 タイピン型マイクロホン ※6-4ページと併せてご覧ください。
HM-257LA	: イヤホンマイクロホン (近日発売予定)

そ の 他

MB-133	: ベルトクリップ
VS-3	: Bluetoothヘッドセット

6 別売品について

■ バッテリーパック使用時の運用時間と充電時間

名称 定格項目		BP-280		
電池の種類		リチウムイオン		
電池の容量		2280mAh min. /2400mAh typ.		
出力電圧		7.2V		
寸法 (幅×高さ×奥行)		52.2×104.5×17.5		
		【条件】突起物は含まず/【単位】mm		
運用時間	パワーセーブ		ON	OFF
	送信出力	1W	約25時間	約18時間
		5W	約16.5時間	約13時間
【条件】送信5、受信5、待ち受け90の割合で繰り返し運用 Bluetooth:OFF、バックライト:OFF				
充電時間 (充電器名)	BC-213	約4時間		
	BC-266	約3時間45分		

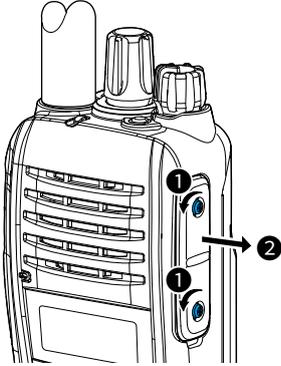
※ Bluetooth 機能を ON にして使用する場合は、運用時間が短くなります。

6 別売品について

■ 保護カバーの取り付けと取りはずし

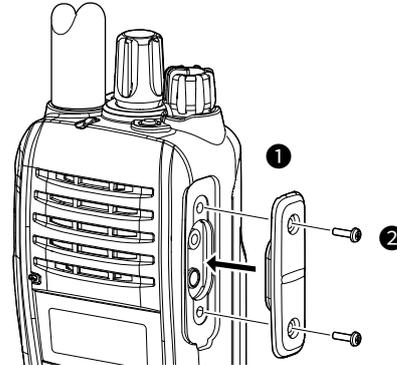
◇取りはずしかた

ネジをはずして、保護カバーを取りはずす



◇取り付けかた

[MIC/SP]ジャックに保護カバーを取り付け、ネジを締める



ご注意

- ◎防塵/防水性能を維持するため、別売品を接続しないときは保護カバーを正しく閉じてください。
- ◎本製品のネジ以外は使用しないでください。

■ HM-168LWP

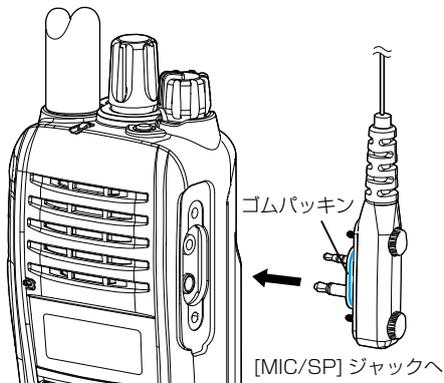
HM-168LWPは、IP67の防塵/防水性能があります。

◇接続のしかた

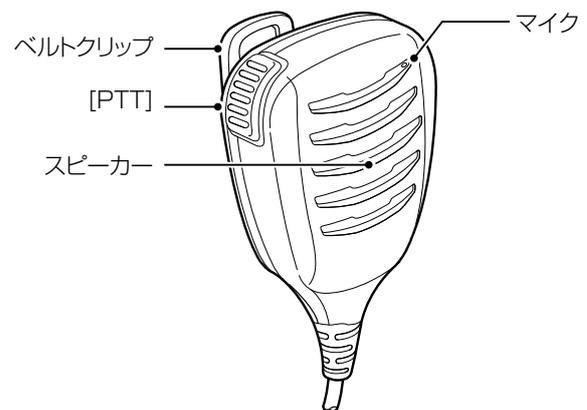
プラグを本製品の[MIC/SP]ジャックに取り付け、指でネジを締めます。

※防塵/防水構造のため、ネジが簡単に回らなくなっていますが、工具の使用はお控えください。

ゴムパッキンが隠れるくらいまでプラグ部分をしっかりと押し込んでから、ネジで締めてください。



◇各部の名称



マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。
マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

ご注意

◎プラグを抜き差しするときは、必ず本製品の電源を切ってください。

◎プラグを水に浸さないでください。
プラグがぬれたときは、本製品に取り付ける前に必ず乾燥させてください。

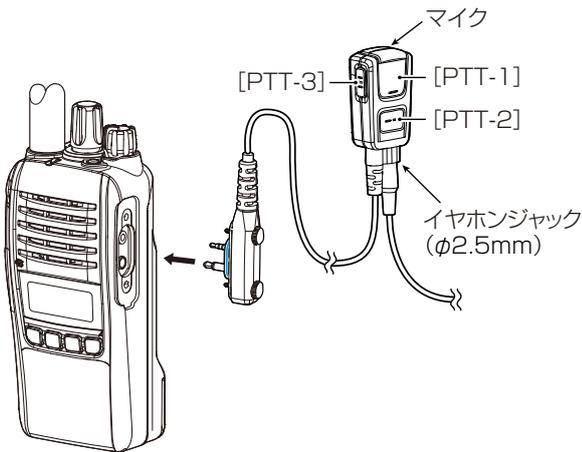
6 別売品について

■ HM-238LWP(サブチャンネルPTT機能対応タイピン型マイクロホン)

EH-15、SP-26、SP-28のいずれかでお使いになれます。

接続について

HM-238LWPは、IP67の防塵/防水性能があります。接続については、同じ防水性能である「HM-168LWP」の「接続のしかた」をご覧ください。(P.6-3)



ご注意

- ◎HM-238LWPを接続するときは、必ず無線機の設定モードから、「外部電源初期値」を「AT」(初期設定値)、または「5V」に設定してください。(P.5-3)
※「GND」に設定されているときは、正しく動作しません。
- ◎HM-238LWPを無線機に装着すると、無線機本体のスピーカーから音が出なくなります。
必ずHM-238LWPにイヤホン(EH-15/SP-26/SP-28)を接続して、使用してください。

サブチャンネルPTT機能の設定によって、[PTT-1]、[PTT-2]、[PTT-3]を押したときの動作が異なります。
※サブチャンネルPTT機能については4-1ページ～4-5ページをご覧ください。

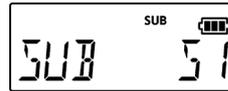
◇サブチャンネルPTTの設定値とその動作

【サブチャンネルPTT：「OFF」の場合】



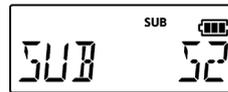
- [PTT-1]/[PTT-2]/[PTT-3]
：無線機に表示されているメモリーチャンネルで送信する

【サブチャンネルPTT：「S1」の場合】



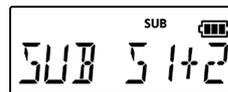
- [PTT-1]：無線機に表示されているメモリーチャンネルで送信する
- [PTT-2]：サブチャンネル1で送信する
- [PTT-3]：送信しない
※エラービープ(プッ)が鳴ります。

【サブチャンネルPTT：「S2」の場合】



- [PTT-1]：無線機に表示されているメモリーチャンネルで送信する
- [PTT-2]：送信しない
※エラービープ(プッ)が鳴ります。
- [PTT-3]：サブチャンネル1で送信する

【サブチャンネルPTT：「S1+2」の場合】



- [PTT-1]：無線機に表示されているメモリーチャンネルで送信する
- [PTT-2]：サブチャンネル1で送信する
- [PTT-3]：サブチャンネル2で送信する

6 別売品について

■ BC-266

◇充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で充電できます。

※1台で使用する場合は付属のACアダプターBC-123Sで充電できます。連結して使用する場合はACアダプターBC-228が必要です。

△ 危険

弊社指定(BP-280)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。

- ◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。
充電が完了すると緑色に点灯します。
※充電エラー時は、充電ランプが橙色と緑色に交互点灯します。
右図の接続を確認し、充電しなおしてください。
- ◎充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下すると、自動的に再充電を開始します。
※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。
※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。
- ◎充電時間
約3時間45分
※ご使用方法によって、充電時間や使用できる時間が異なります。

◇連結充電について

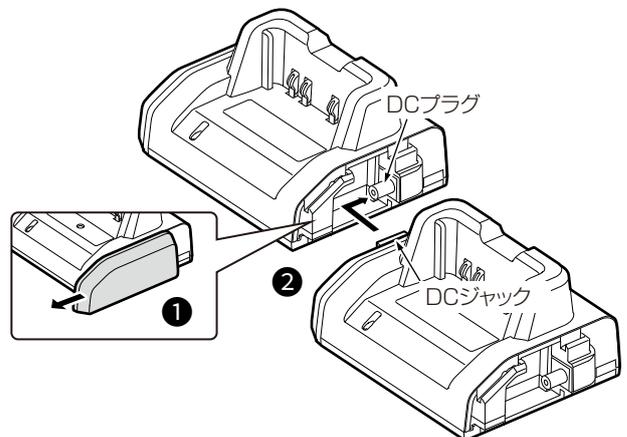
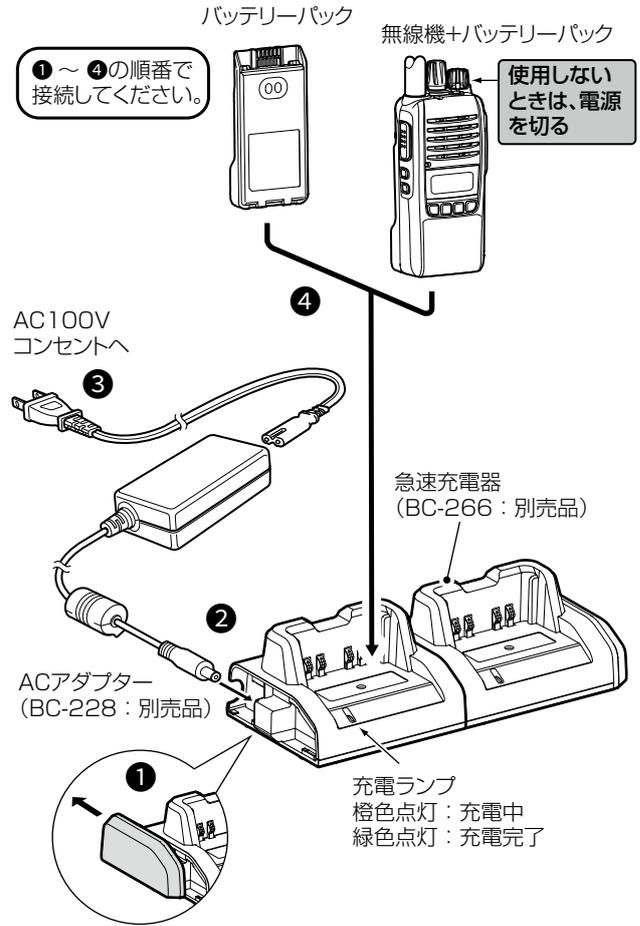
充電器を最大6台まで連結して、同時に充電できます。

【連結のしかた】

1. 充電器右側面のカバーを取りはずします。(①)
2. 右側面にあるDCプラグと、もう1台の充電器(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。(②)

△ 警告

BC-266を7台以上連結して充電しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

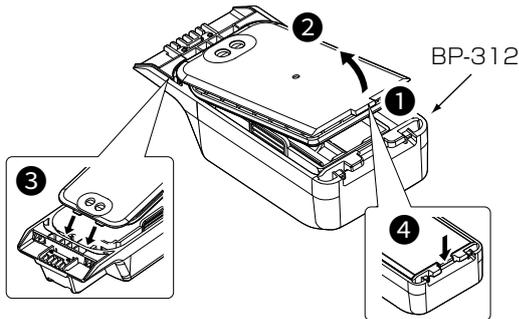


6 別売品について

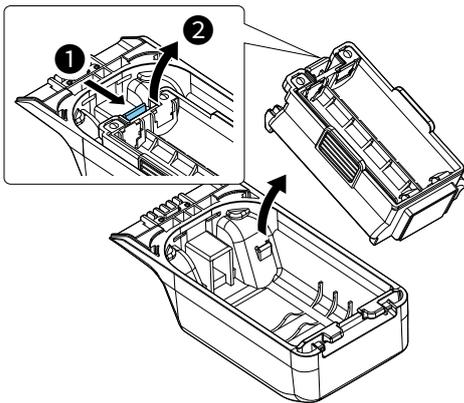
■ BP-312(アルカリ乾電池ケース)

◇アルカリ乾電池の入れかた

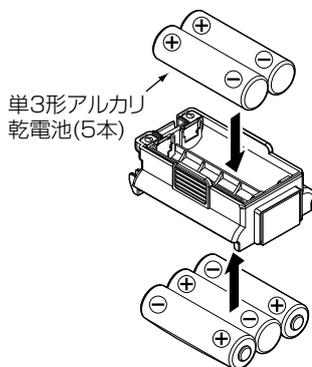
1. 乾電池ケースのフタを開けるときは、指を①の部分に掛けて、②の方向に引き上げます。
フタを閉じるときは、③→④の順番で閉じてください。
そのとき、ケース外部に防水用パッキンがはみ出さないように注意してください。



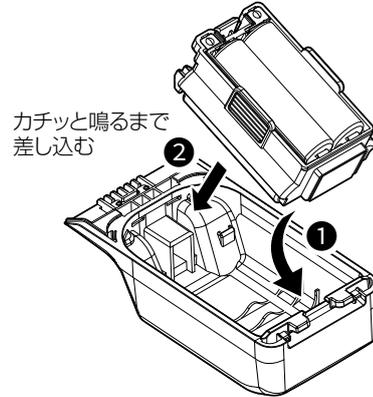
2. ①の部分を指で押しながら、②の方向に引き上げて取り出します。



3. 単3形アルカリ乾電池を5本入れます。
※+(プラス側)と-(マイナス側)を間違えないように入れてください。



4. ①の方向から先に入れ、「カチッ」と鳴るまで②の方向へ差し込みます。



◇アルカリ乾電池ケースを正しくご使用いただくために

△ 危険

アルカリ乾電池ケース(BP-312)は、単3形アルカリ乾電池専用です。
マンガン乾電池や単3形の充電式電池は使用しないでください。
破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

△ 注意

アルカリ乾電池ケースを使用しないときは、アルカリ乾電池ケースからアルカリ乾電池を取りはずして保管してください。

- ◎アルカリ電池ケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電源が切れます。
- ◎アルカリ電池ケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いたやわらかい布などで、電池端子部を定期的についでください。
- ◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。
- ◎運用時間の目安は、下の表をご覧ください。
※使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、運用時間が大きく異なることがあります。
また、アルカリ乾電池の特性により、低温では運用時間が短くなります。

運用時間	パワーセーブ		ON	OFF
	送信出力	1W	約 6.5 時間	約 4 時間
	5W	約 43 分	約 23 分	
【条件】送信5、受信5、待ち受け90の割合で繰り返し運用 Bluetooth : OFF、バックライト : OFF				

6 別売品について

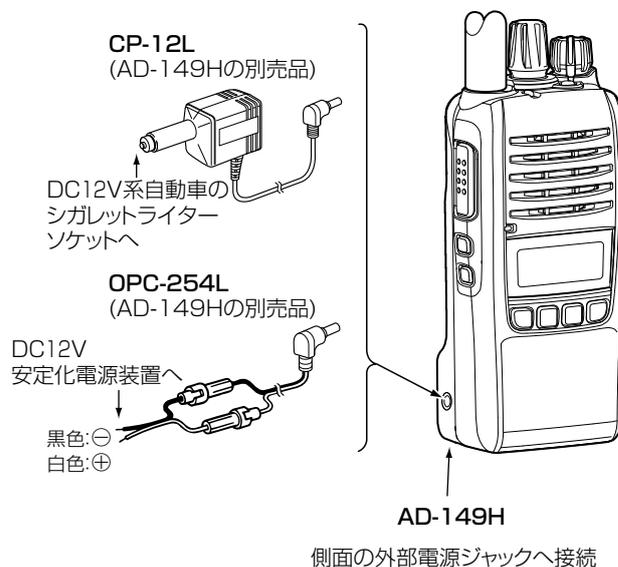
■ 外部電源の接続

無線機の電源を切り、バッテリーパックを取りはずしてから、別売品の外部電源供給器(AD-149H)を取り付けてください。

※外部電源は図のように取り付けてください。

◇外部電源接続についてのご注意

- ◎DC16Vを超える外部電源を接続しないでください。
AD-149Hの外部電源ジャック(DC IN)に入力できる電圧は、DC10V~16Vです。
- ◎外部電源をAD-149Hの外部電源ジャック(DC IN)に接続するときは、AD-149Hの別売品として設定されているCP-12L、OPC-254Lをご使用ください。
- ◎CP-12L(ノイズフィルター付き)は、DC12V系のバッテリー車のシガレットライターソケットから電源を供給できます。
なお、DC24V系のバッテリー車でご使用の場合は、DC24Vを12Vに変換する装置(DC-DCコンバーター)が必要です。
お買い上げの販売店にご相談ください。
- ◎OPC-254Lは、市販の安定化電源装置に接続します。
- ◎外部電源接続時、長時間、ハイパワーで連続送信すると、内部の回路を保護するために放熱し、温度が上昇しますので、やけどの原因になることがあります。
特に、放熱が阻害されるような取り扱いをしないでください。
十分に放熱されないと、発熱して、変形や故障、やけどの原因になることがあります。
- ◎OPC-254Lを接続するときは、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の極性を間違えないように十分注意してください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎AD-149Hは防水構造ではありませんので、水などでぬれやすい場所では使用しないでください。



■ 日常のお手入れと点検

- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
また、バッテリーカバーを取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎無線機本体、バッテリーパックの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。(P.2-2)
また、バッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、電源/音量ツマミを回して、表示部で音量を確認してください。

■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守について

本製品は、IP67を保証している無線機です。
この防塵/防水性能を維持するためにも、保証書に記載の保証期間経過後は、定期点検(年1回)の実施をおすすめします。
また、防塵/防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。
※定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。(P.7-3)

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。(P.7-3)

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	バッテリーパックの接触不良	バッテリーパックの端子を清掃する アルカリ乾電池ケースをご使用の場合は、乾電池の極性を間違えていないかを確認する	—
	バッテリーパック、または乾電池の消耗	バッテリーパックは充電し、乾電池は新しいものに入れ替える	—
	バッテリーパックをご使用の場合、保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に設定されている	電源/音量ツマミを回して、無線機本体の音量を確認する	P.1-2
送信できない (プップッ…が鳴る)	連続送信時間の制限を超えて送信している	1分以上待ってから、もう一度送信する	—
通話できない	メモリーチャンネルが合っていない	相手と同じメモリーチャンネルに合わせる	P.3-1
	ユーザーコードの設定が正しくない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.3-4
	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P.3-1

7 保守について

現象	原因	処置	参照
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P.3-2
キー操作ができない	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.4-8
受信音が聞こえない	ユーザーコードを設定している	相手のユーザーコードの設定を確認する	P.3-4
充電が完了しない	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P.6-5
充電中に、充電器のランプが橙色と緑色を交互に点灯している	バッテリーパックが正しく差し込まれていない	無線機に正しく差し込まれていることを確認する	P.6-5
	10℃～40℃以外の環境で充電している	10℃～40℃の環境で充電する	—
	各端子(充電端子や電源端子)の接触不良	ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する	—
充電しない	充電器の保護装置が動作している	ACアダプターを抜き差しする	P.6-5
ペアリングできない	ペアリングモードになっていない	ペアリングモードにする	P.4-6
	周辺にBluetooth対応機器が複数稼働している	ほかのBluetooth対応機器を停止させる	—
		ほかのBluetooth対応機器のない場所に移動する	—
周辺の無線LAN機器、または電子機器が妨害している	ほかのワイヤレス通信を停止させたり、周辺機器との距離をはなす	—	

※バッテリーパックを充電しなおしても電源が入らない場合や運用時間が短い場合は、バッテリーパックの故障、または寿命です。

お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

7 保守について

■ アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P.7-1)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

電子メール：support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ：https://www.icom.co.jp/

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

